

1) 概要

a. 使用目的、施工場所および構造によって、固定Ⅰ型、固定Ⅱ型がある。

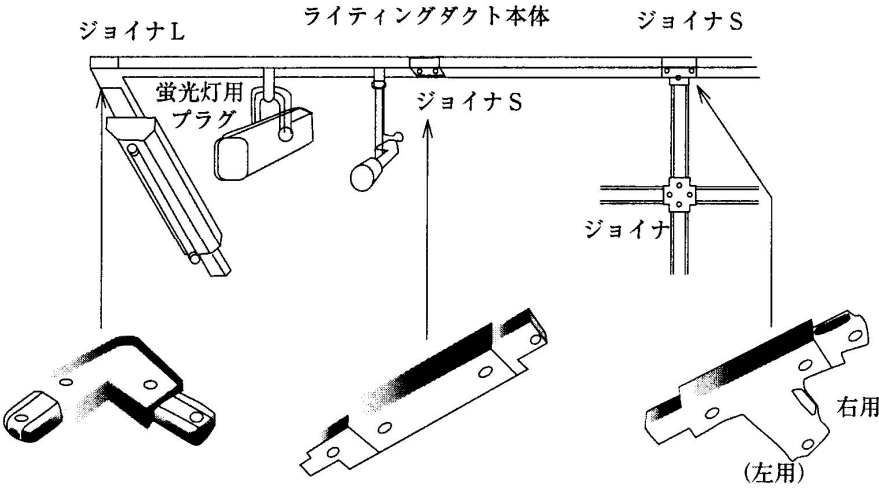
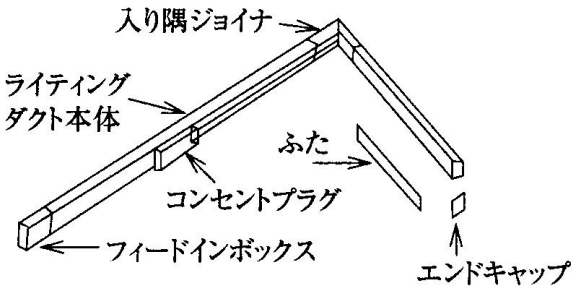
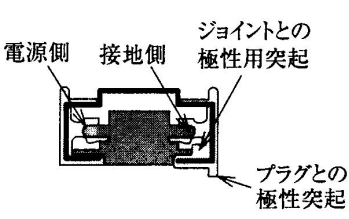


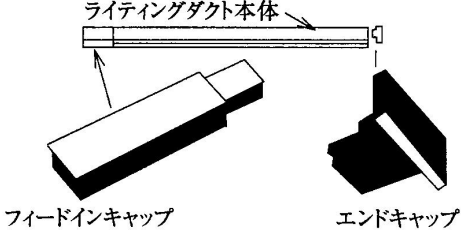
図 - 1 ライティングダクト固定Ⅰ型の施工例および付属品（天井面取付け）



(a) 施工例



(b) ダクト本体の断面

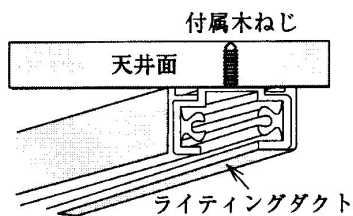


(c) 付属品

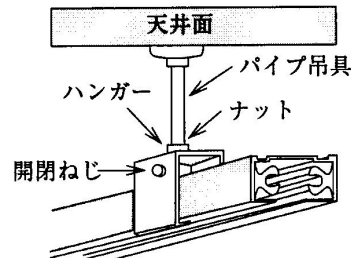
図 - 2 ライティングダクト固定Ⅱ型の施工例およびその付属品（壁面取付け）

2) 施工方法

- a. ライティングダクトは、屋内における乾燥した展開した場所や点検できる隠ぺい場所で使用し、造営材（床、壁、天井など）を貫通して施設することはできない。
- b. ダクトを造営材に支持する場合は、配線ダクト1本ごとに2箇所以上取り付け、支持点の間隔は2m以下とする。
- c. 配線ダクトを造営材に固定する場合は、加工しながらダクト相互の接続をジョイナを用いて行う。ジョイナは、金切り鋸で切断し、やすりで面取りを行う。（図-4）
- d. 電源接続は、ダクト本体に取り付け、セットねじで締め付ける。その際、極性を間違えない。
- e. ダクトの開口部は、ダクトキャップで閉そくする。図-6のようにエンドキャップを取り付ける。
- f. 配線ダクトの開口部は、ダクトカバーを取り付けて覆う。（図-7）
- g. ダクトの固定型を使用する場合は、人が容易に触れるおそれがない場所において、ダクト内部にじんあいが侵入しないよう、横向きに施設することができる。
ダクトを人が容易に触れるおそれがある場所に施設するときは、電源側に漏電遮断器を施設しなければならない。
- h. ダクトにはD種接地工事を施す。ただし、合成樹脂その他の絶縁物で金属部分を被覆したダクト（例えば、固定型）を使用する場合、または対地電圧150V以下で、かつ長さが4m以下の場合、接地工事を省略することができる。



(a) 取付けの場合



(b) パイプ吊りの場合

図-3 配線ダクトの取付け

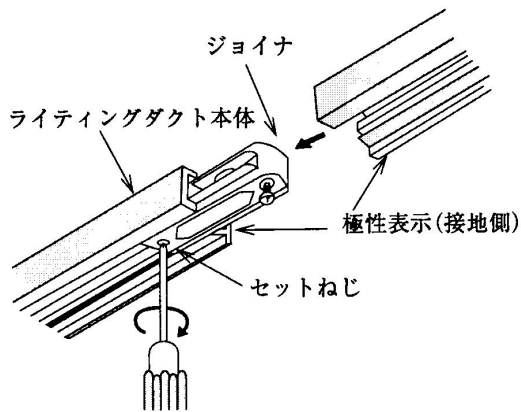


図 - 4 ダクト相互の接続

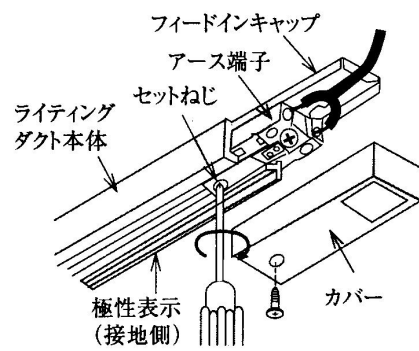


図 - 5 電源線接続用フィードインキャップの取付け

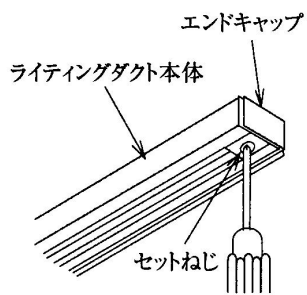


図 - 6 エンドキャップの取付け

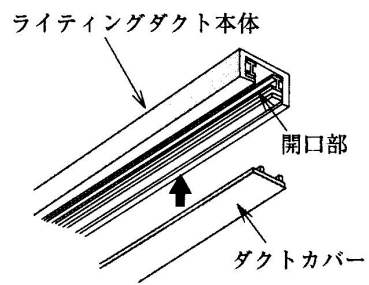


図 - 7 ダクトカバーの取付け